

美術科学習指導案

安芸郡府中町立府中緑ヶ丘中学校 畑 尻 佳 括

1 学 年 第3学年

2 題材名 美術作品を体感しよう - 「考える人」になろう! -

3 題材設定の理由

新学習指導要領では、これまで以上に鑑賞教育の重要性が強調されている。独立した活動としての鑑賞の充実、日本美術文化の尊重、鑑賞授業の授業時数確保、美術館等の活用が示され、いっそうの充実が求められている。これは、生涯学習を見据え、将来にわたって美術に親しむ素地づくりと、豊かな人間性の育成を鑑賞教育に期待していることの現れであろう。

私がこれまでおこなってきた鑑賞の授業は、自画像の制作の導入でゴッホの自画像を鑑賞するなど、表現にいかすための鑑賞や、完成した生徒作品を相互鑑賞するというものが主であった。新学習指導要領にある「独立した活動としての鑑賞」の授業に関しては、芸術家の生涯や代表作品をビデオ教材とワークシートでたどるといったもので、それらの授業の中で生徒が生き生きと活動するという場面はあまり見られなかった。

この題材はそのような反省を踏まえ、美術作品に生徒自身が「なる」という活動を取り入れた鑑賞題材である。作品に「なる」という、これまでに経験したことのない活動は、生徒の興味・関心を大きく膨らませ、きっと楽しいものになると考える。生涯学習を見据え、将来にわたって美術に親しむ素地づくりを考えると、この「楽しむ」ということは大切なキーワードである。新学習指導要領にも「鑑賞も表現と同様にその活動が生徒にとって楽しみや喜びでなくてはならない。そして、それらの体験が自己の内面を豊かにし、情操や豊かな人間性への血肉となって精神形成に寄与していくのである。そのことを充分意識した質的にも量的にも中学生段階の成長にふさわしい鑑賞指導が望まれる(注1)」とある。生徒は「なる」という、既成観念にとらわれない創作を伴った鑑賞の活動によって、表現や鑑賞の楽しさを体験でき、美術とは難しいものではないことに気付いていけると考え、この題材を設定した。

本学級の生徒は、「表現」と「鑑賞」とでは、圧倒的に「表現」することが好きである。特に、「何かをつくる」という活動をとても楽しみにしており、ひとつの題材が終わると、「次は何をつくるんですか?」と質問することも多い。一方、「鑑賞」に関しては、堅苦しいイメージを持っており、次の授業が「鑑賞」だと分かると、「ええ、何かつくりようよ」という発言が聞かれたりする。しかし、作品制作中に、相互鑑賞しながら、それぞれの作品について自由に意見を交わしていることも多いことから、「鑑賞」の授業に対するマイナスイメージは、主にこれまで私がおこなってきた鑑賞の授業の在り方に起因するものだと思う。

「考える人」という作品は、この学級の生徒にとって、身近な作品のひとつである。TVコマーシャルに使用されたり、町内の小学校に設置されているということもあり、アンケートによると、クラスの全員がその題名を知っている。作者であるロダンの名前を知っていたのは、そのうち7名。これが、ある作品(「地獄の門」)の一部だということを知っている生徒も1名いた。

本題材は、美術作品に生徒自身が「なる」という活動を取り入れた鑑賞の題材である。鑑賞の手順としてはオーギュスト・ロダンの彫刻「地獄の門」の上段にある「考える人」のポーズを生徒一人一人がとり、デジタルカメラで撮影する。その写真をラベル・シールにプリントし、生徒は画用紙に印刷された「地獄の門」(「考える人」の部分は消してある)にその写真を貼り付け、彩色し、それぞれの「地獄の門」を作り上げる。その後、相互鑑賞を行う。

数年前、著名人が母校を訪ねて課外授業をおこなうというNHKの「課外授業ようこそ先輩」という番組(注2)にアーティストの森村泰昌さんが出演し、ラファエロ作「アテネの学堂」に描かれているそれぞれの人物のポーズを生徒44人にとらせ、学校内にあるものを小道具にして、写真にとり、名画を再現しようとする試みを行っていた。番組内で生き生きと活動していた子どもたちの笑顔と、「自由に楽しい」といったインタビューでの言葉が実に印象的であっ

た。「既成観念にとらわれない創作によって、表現する楽しさを体験し、美術とは難しいものではないことに気づいていく（注3）」このような試みが自分にもできないかと考えた。

生徒は、「考える人」に「なる」ことを通して、いつも以上に作品を観察するだろうし、見たり聞いたりすることだけでは分からなかった作者の表現意図を感じ取ることも可能であろう。また、作品に「なる」ことによる鑑賞の活動は、「生徒にとって楽しみや喜び」につながる活動であると考え。少なくとも、これまでの鑑賞の（生徒にとっても指導者にとっても）堅苦しいイメージは払拭できるのではないかと考える。

4 指導目標

- ・「作品になること」を通して、鑑賞の活動に興味・関心を持って楽しくかかわることができるようにする。
- ・「作品になること」を通して、自分の感じたことや考えたことを意欲的に表現できるようにする。
- ・「地獄の門」について、ロダンの思いや創造力の豊かさを感じ取り、自分なりの見方や感じ方を深められるようにする。
- ・生徒一人一人の感じ方の違いに思いをめぐらせ、それぞれを尊重する態度を育てる。

5 準備物

「考える人」図版（拡大コピーしたもの）、「地獄の門」図版（「考える人」を消したもの）、デジタルカメラ、はさみ、のり

6 学習指導計画（全2時間）

第一次 「考える人」になりきって写真撮影

第二次 各自の「地獄の門」づくり、相互鑑賞（本時）

7 学習の展開

	学 習 活 動	指 導 の 手 だ て	評 価 の 観 点
第 一 次	1 本時の授業内容について知る。		・手順・留意点を把握しているか。
	2 「考える人」の図版を鑑賞し、どのようなポーズかを知る。	・鑑賞と同時に、図版をスケッチさせ、ポーズについての理解を深める。	・ポーズに気を付けて鑑賞しながら、スケッチできているか。
	3 班ごとに、撮影者、モデルを交互におこない、なりきったポーズで撮影する。	・全身が入るように撮影させる。	・班員それぞれの考えを大切にしながら、撮影を進めているか。 ・ポーズに興味・関心を持って活動しているか。
	4 自己評価カードに記入する。	・何を考え、何に悩む人かを想像させる。	・自分の感じ取ったことを書き表せているか。
	1 本時の授業内容について知る。		・手順・留意点を把握しているか。
	2 前回の授業の感想を出し合う。	・OHPフィルムに何人かの感想をコピーし紹介する。	・友達の感想から、イメージをより広げられているか。

第 一 次	3 プリントアウトされた自分の写真を切り抜き、「門」の台紙に張りつけ、簡単に色をつける。	・台紙の部分に自分なりの工夫で自由に色をつけるよう助言し、それぞれの「門」を制作させる。	・楽しく活動にかかわっているか。 ・工夫しながら、自分の考えが表現できているか。
	4 完成した「門」に題名をつける。	・「門」の制作を通して広がったイメージをもとに、題名をつけさせる。	・自分の考えや見方を深めて、題名をつけているか。
	5 完成したそれぞれの作品と題名を発表する。また、「地獄の門」についてロダンの思いを知る。	・それぞれのよさを発見させる。また、作品の題名が「地獄の門」であることを知らせ、ロダンの思いや考えを伝える。	・友達の感じ方の違いに気付く、よさを認めているか。 ・ロダンの思いや創造力の豊かさを感じ取れているか。
	6 自己評価カードに記入する。	・作品から感じ取ったことや、友達の見方、ロダンの思いをもとに、「地獄の門」について感想を書かせる。	・ロダンの思いを感じ取りながら、自分なりの見方や感じ方を深められているか。

(注1) 文部省「中学校学習指導要領(平成10年12月)解説 美術編」1999年 p.83

(注2) NHK「名画に進入! 美術の不思議体験」1998年5月15日放送

(注3) NHKビデオ「課外授業ようこそ先輩」紹介文より